

継続事業評価シート(対象:H28年度実施事務事業)

H29年度評価

事務事業名	文化財保護普及事業					事務事業コード	01801
部 名	生涯学習部	課 名	文化財課	係 名	文化財保護係	部課コード	120500

1. 事業概要

総合計画コード	3411	3412		
事業年度	年度 ～ H	年度	事業類型	◎ソフト事業 ○ハード事業
法令等の義務付け	○法令等(市条例・要綱等を除く)で義務付けられている事業 ◎義務と任意の両方を含んでいる事業 ○任意(市条例・要綱等を含む)の自治事務		＜根拠法令等(法律、条例、要綱など)＞ 文化財保護法・埼玉県文化財保護条例・朝霞市文化財保護条例・朝霞市文化財保護関係団体補助金交付要綱	
めざす 目的成果	文化財が市民共有の財産であるという意識が啓発され醸成されている。			
事業内容	市内所在の文化財について調査・研究及び啓発・公開を行う。 市内文化財保護関係団体への補助金交付を行う。			
事業手法	☒ 市の完全な直営 ☐ 委託等(請負、負担金、交付金等を含む) ☐ 市民等との協働 ☒ 補助金交付 【補助金】文化財保護関係団体補助金			

2. 実施結果

H28年度の事業の実施内容		文化財保護審議委員会議を2回行った。 文化財保護に必要な調査及び資料収集を行った。 文化財に関する啓発活動(広報あさか等への文化財情報の掲載・ホームページでの指定文化財紹介・朝霞第七小学校での埋蔵文化財出土遺物の展示)を行った。 公用車など必要機材の管理を行った。 【補助金】溝沼獅子舞保存会60,000円・一夜塚古跡保存会35,000円・根岸野謡保存会25,000円 合計120,000円									
		単位:千円		H26年度決算		H27年度決算		H28年度決算見込			
投入コスト	a 事業費[イ]～[ホ]		914		817		803				
	財源内訳	[イ]国庫支出金									
		[ロ]県支出金									
		[ハ]地方債									
		[ニ]その他									
		[ホ]一般財源	914		817		803				
	b 人件費		5,130		5,496		5,862				
総コスト(a 事業費 + b 人件費)		6,044		6,313		6,665					
投入労働量		常勤職員等(人工)		0.70 人		0.75 人		0.80 人			
		一般職非常勤職員等(時間)		0 時間		0 時間		0 時間			
a 事業費 (H28年度決算見込)の執行内訳		報酬 80千円 使用料及び賃借料 210千円 旅費 38千円 負担金、補助及び交付金 155千円 需要費 292千円 役務費 28千円 合計 803千円									
指標名			単位	H28目標・計画	H29目標・計画	H30目標・計画	最終目標・計画				
				(H28実績見込)	(H29実績見込)	(H30実績見込)	目標年度				
活動	①	文化財保護関係団体の補助金申請件数	件	3 (3)	3 (—)	3 (—)	H	32	年度		
	②			()	(—)	(—)	H		年度		
成果	①	文化財保護関係団体への補助金交付件数	件	3 (3)	3 (—)	3 (—)	H	32	年度		
	②			()	(—)	(—)	H		年度		

3. 事務事業の分析

必要性 (市が関与する必要性はあるか)	判定	☒ A 必要性が高い	☐ B 必要性がある程度認められる	☐ C 必要性が低い
	☐ 社会経済環境の変化により、当該事務事業が解決すべき課題が増えている、増えることが予想される ☐ サービスの拡大や充実を求める意見・要望が増えている ☒ 法令等により、市に実施が義務付けられている ☐ 市が実施しないと、市民生活に深刻な影響が生じる ☐ 民間が実施した場合、現在のサービス水準を維持することが、収益性や技術面で難しい ☐ その他 <説明> 文化財保護法に則り、市内の文化財を保護し、市民に啓発していく必要性は高い。 【補助金】市内の残る数少ない郷土芸能や文化財の保護を実施する団体として、その運営や事業に関して補助する必要がある。			
達成度 (事業の目標は達成したか)	判定	☐ A 目標よりも大きな成果が得られた	☒ B 概ね目標の成果が得られた	☐ C 目標とする成果が得られなかった
	☒ 活動指標の目標を達成した ☒ 成果指標の目標を達成した ☐ 指標に表れない事項について目標を達成した ☐ その他 <説明:指標の達成状況及び改善等に関する達成状況を記入> 広報あさかや市ホームページ、朝霞駅前電光掲示板、市内掲示板等を活用した文化財に関する啓発は、一定の成果をあげた。 補助金交付団体の活動は、溝沼獅子舞保存会は春秋の例祭にて獅子舞を披露した。一夜塚古跡保存会は総会や研修会を実施し、文化財の保護・周知に貢献した。根岸野謡保存会は旧高橋家住宅での公演をはじめ、市民芸能まつり等での公演や練習会等文化財の保護に貢献した。また、補助金交付団体からは文化財保護関係団体補助金交付実績報告書の提出を受け、補助金の適切な使用について確認している。			
留意点 (政策の立案・推進に際して)	<説明:留意した点について記入> 思いやり:市民が郷土の歴史を学ぶための情報提供に努めた 参加と協働:市民と共に、市の財産である文化財の保護に努めた 経営的な視点:文化財の保存を将来に向けて継続するため、市民に活動支援に努めた			
見直し余地 (事業の内容、実施手法等は適切か)	判定	☐ I 見直す余地がない	☒ II 見直す余地がある程度認められる	☐ III 見直す余地がある
	☐ 民間委託や指定管理者制度の活用など事業手法の見直しの余地がある ☐ 業務の進め方や手続き(業務プロセス)を簡略化・簡素化する余地がある ☐ サービスの対象、水準、内容を見直す余地がある ☐ 受益者負担のあり方について見直す余地がある ☐ 実施体制(事業間・組織間の連携や事務分担など)を見直す余地がある ☐ 投入したコストに見合った効果が現れておらず、効果向上やコスト圧縮の余地がある ☒ その他 <説明> 新たな文化財指定を視野に入れて業務を進めるとともに、文化財の重要性をアピールし、積極的に保護・普及していくために、市ホームページ等への情報掲載等を更に進めていく必要がある。			

4. 今後の展開方針[課としての判断]

事業の方向性	☒ A 市で継続実施 ☐ B 休止・廃止 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ C 民営化 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ D 国・県に移譲 (実施時期: ☐ H28年度から ☐ H29年度から ☐ H30年度から) ☐ E 終了 (実施時期: ☐ H28年度まで ☐ H29年度まで ☐ H30年度まで)			
	成果の方向性	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小		
今後の取組方針	投入資源の方向性	事業費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		労働費	☐ A 拡大 ☒ B 現状のまま ☐ C 縮小	
		☒ A 見直して継続 ☐ B 現状のまま継続		
	見直しの方向性	☐ 民間委託・PFI・指定管理者等を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 業務プロセス改善 (実施時期: H 年度) ☐ 対象・水準等の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 受益者負担の見直し (実施時期: H 年度) ☐ 臨時・再任用職員等の活用を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☐ 市民等との協働を今後導入・拡大 (実施時期: H 年度) ☒ その他 (実施時期: H 29 年度)		
方針 (次年度の改善内容等を含めた具体的な事業の展開方針)	・啓発事業の一つとして、「あさかみどころマップ」(改訂版)を発行する。 ・広報誌等で積極的に情報を提供するとともに市ホームページで指定文化財等の紹介を拡大する。 ・学校教材として活用してもらうために、市内小学校での埋蔵文化財出土遺物展示を進める。 ・補助金交付団体である溝沼獅子舞保存会や根岸野謡保存会については、今後も補助金の交付を継続すると共に、無形文化財保存のために支援を行っていく。			